

## 「連携が臨床検査・臨床研究推進の「鍵」」

(学法) 三宅学園

下松デンタルアカデミー専門学校 学校長

広島大学名誉教授

### 栗原 英見



<抄録>

本大会のテーマは「臨床検査の新たな挑戦と進化」である。このテーマに沿って、大学病院の歯科の分野がどのような役割を果たしていくべきかという視点でお話しさせていただきます。一般社団法人 国立大学病院長会議が将来像実現化行動計画というものをしています。Web 上で公開されておりますので、内容を見ることが出来ます。最新版は「将来像実現化行動計画 2022」で、「35 の提言を礎に、医療の質向上と国民の福祉に貢献し、2025 年のあるべき姿を実現します」と述べています。その行動計画の中に歯科もありまして、歯科の提言 2 のタイトルは、「多施設共同研究を含めた臨床研究の推進と歯科系臨床検査の活用」です。内容は「歯科臨床研究推進会議を開催し、大学間の検査実態を可視化することで、多施設共同研究が遂行可能なネットワーク構築を行う。また、歯科疾患・治療における臨床検査を用いた質の高い臨床研究の推進に寄与し、新規歯科医療臨床検査の保険収載に貢献する。」と記載されています。将来像実現化行動計画は 2012 年に最初に出ていますが、歯科についての記載は 2016 年版からです。2016 年版で歯科臨床研究推進会議の設置・開催がうたわれ、その後、今年度まで開催が継続しております。歯科臨床研究推進会議の重要な機能の一つは「多施設共同研究を含めた臨床研究の推進」です。「cnm 遺伝子陽性の *Streptococcus mutans* の全国的な分布についての研究」は実際に動いている共同研究テーマの一つです。一方、日本歯周病学会では、PISA(periodontal inflamed surface area)を用いた多施設共同の臨床研究が行われている。このような多施設連携の共同研究は検査の標準化、症例数の増加／信頼性の上昇などに有効であり、提言にあるように「新規歯科医療臨床検査の保険収載に貢献する」に連携は極めて重要なことと考えます。

<栗原略歴>

1980年 広島大学歯学部歯学科 卒業

1980年－1983年 大阪大学歯学部附属病院口腔治療科

1983年－1995年 岡山大学歯学部／同附属病院 助手、講師、助教授

1989年－1991年 米国留学 (Emory University, Atlanta, GA, Eastman Dental Center, Rochester, NY)

1995年－2020年 広島大学教授 歯周病態学研究室

日本歯科保存学会名誉会員、日本歯周病学会名誉会員、元日本口腔検査学会副理事長

日本歯科保存学会学会賞 (2020年)、日本歯科医学会会長賞 (研究部門) (2019年)、

日本歯周病学会賞 (2020年)、日本口腔検査学会功労賞 (2023年)